



プレス発表資料

平成 20 年 12 月 25 日  
科学技術政策研究所

科学技術への顕著な貢献 2008  
(ナイス ステップな研究者)

科学技術政策研究所（所長 和田智明）では、科学技術の振興・普及において顕著な貢献をされた 10 組 12 名の方々を「ナイス ステップな研究者」として選定しました。

科学技術政策研究所では、2005 年より、科学技術への顕著な貢献をされた方々「ナイス ステップな研究者」を選定しております。2008 年は、科学技術政策研究所の調査研究活動及び科学技術政策研究所の専門家ネットワーク（約 2,000 人）の意見を参考に、科学技術分野においてここ数年間になされた顕著な業績の中から、特に科学技術政策上注目すべき方々を選びました。これらの方々の活躍は科学技術に対する夢を国民に与えてくれるものでもあり、ここに広くお知らせいたします。

<お問い合わせ先>

科学技術政策研究所 企画課

TEL : 03-3581-2466 FAX : 03-3503-3996

E-mail : office@nistep.go.jp

ホームページ : <http://www.nistep.go.jp>

【研究部門】

にいっしょうしろう  
○新津洋司郎 札幌医科大学 分子標的探索講座 特任教授  
肝硬変など様々な難治性疾患の治療法開発による医療への貢献

ほその ひでお  
○細野 秀雄 東京工業大学 フロンティア研究センター 教授  
第 3 の超伝導物質、鉄系新高温超伝導体を発見

みうら みちこ  
○三浦 道子 広島大学 大学院先端物質科学研究科 教授  
半導体超微細化時代に適合する技術的に卓越したトランジスタモデルの開発と国際標準化の獲得

## プレス発表資料

---

○山口 <sup>やまぐち</sup> 茂弘 <sup>しげひろ</sup> 名古屋大学 大学院理学研究科 教授  
典型元素の基礎化学を通じて新物性を持つ新化合物群を創出

○若山 <sup>わかやま</sup> 照彦 <sup>てるひこ</sup> 独立行政法人理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター  
ゲノム・リプログラミング研究チーム チームリーダー  
凍結死体の体細胞からのクローン個体作出に成功

### 【プロジェクト・国際研究交流部門】

○日本原子力研究開発機構 J-PARC センター  
池田 <sup>いけだ</sup> 裕二郎 <sup>ゆうじろう</sup> 物質・生命科学ディビジョン長  
長谷川 <sup>はせがわ</sup> 和男 <sup>かずお</sup> 加速器ディビジョン加速器第1セクションリーダー  
金正 <sup>きんしょう</sup> 倫計 <sup>みちかず</sup> 加速器ディビジョン加速器第2セクションリーダー  
先端的な加速器パルス中性子源の開発

○嶋田 <sup>しまだ</sup> 雅暁 <sup>まさあき</sup> 長崎大学 熱帯医学研究所 教授  
ケニアを拠点として感染症対策に係る国際研究交流を推進

### 【人材育成・男女共同参画部門】

○河野 <sup>こうの</sup> (平田) <sup>ひらた</sup> 典子 <sup>のりこ</sup> 日本大学 理工学部数学科 教授  
男女共同参画、女性研究者支援、女子学生に対する教育活動に貢献

○米田 <sup>よねだ</sup> 仁紀 <sup>ひとき</sup> 電気通信大学 レーザー新世代研究センター 教授  
先進的な工学系大学院教育プログラムの開発と実施における貢献

### 【成果普及・理解増進部門】

○新井 <sup>あらい</sup> 紀子 <sup>のりこ</sup> 国立情報学研究所 情報社会相関研究系 教授  
Web を活用した情報共有サイトを無償公開し、新たな学校教育手法を全国的に展開。また、数学嫌いの人々等を対象に青少年・一般向けの数学入門書を多数執筆

以上

## 【人材育成・男女共同参画部門】

- 米田 仁紀 電気通信大学 レーザー新世代研究センター 教授  
先進的な工学系大学院教育プログラムの開発と実施における貢献

科学技術創造立国を目指す上で、理工系大学院生の教育を充実し優秀な人材を育てることは急務です。米田教授は、レーザー科学の研究者として国際的に活躍する一方で、大学院教育の課題を解決する新しい教育手法を提案し、それを自ら実施運営してきました。

平成8年から継続して推進してきた「創造力開発光学実験プログラム（ETL）」は、大学院生が実験の企画、立案、テキスト作成まで行い、学部学生を教えることで、教育しながら自らも学ぶことを目指したプログラムです。すでに300人を超える受講生を出し、光科学を中心とした140以上の新しい教育実験プログラムが開発されています。

また、米田教授は「実践的テクノロジスト—危機・限界体験実験プログラム—」を提案しました。これは、学生に危機を疑似体験させる実験的教育手法です。たとえば、感電、レーザー直視の模擬、コンデンサの過電圧・老朽にともなう爆発をともなうまでの故障、チューブの過加圧による破裂などを疑似体験させることで、独立して研究開発を行う上での心構え・経験を植えつけることを目的としています。

このような取り組みは、現在の我が国の大学・大学院教育に不足しているといわれるもので、米田教授の活動は高く評価できます。



プログラム体験中の学生



レーザー新世代センターの様子